

遠距離介護の試行錯誤 ―テレビ電話で母をみる―

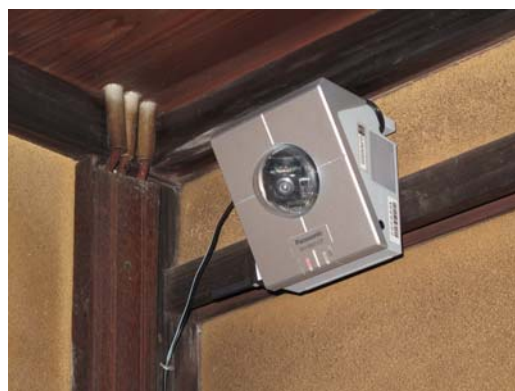
(第4回)

家族の会会員 長坂 寿俊

[ネットワークカメラを取り付ける]

一人暮らしの母との連絡手段は専ら電話ですが、その電話をかけてもなかなか通じません。動き回って居間にじっとしていないのです。台所、トイレ、二階、庭、近所に徘徊しているかも知れません。起きているのか寝ているのかもわかりません。母が電話に出るとほっとします。

2008年2月、携帯電話会社の営業所に遠隔操作できるモニターカメラの有無について相談に行きました。ホームネットワークカメラのことで、携帯電話やパソコンなどを使って離れたところの様子をインターネットを経由してモニタリングできるカメラがあるそうです。パンフレットには、「遠く離れた家族が気になる、こんな時こそホームネットワークカメラ」、「ちょっとした時に気になる故郷の母の様子、今日も無事だっただろうか?」、「家で留守番しているペットの様子を外出先から見たい」、正に探していたテレビ電話です。早速ネットワークカメラを購入し、カメラのスロットに差し込むカード型携帯電話回線を契約しました。



京都実家の居間の天井下にネットワークカメラを取り付けました。使い方は簡単、自分の携帯電話からネットワークカメラの携帯端末に電話するだけです。母は居間で食事をし、新聞を読み、テレビを見、電話をし、夜は布団を敷いて寝ます。カメラのレンズは上下左右に遠隔操作で動かせるし、ズームも可能です。これで、母の居間での日常行動がいつでも把握できるようになりました。



このころテレビ電話による観察からデイサービスセンターやケアマネージャーに送信したファックスの記録からいくつか列挙してみます。

2008年3月3日のファックス：『先週、電話機の後ろの壁に画鋸で貼り付けておいた薬カレンダーを母がはがして隣室の机の引出に隠した件がありましたが、昨日、元の場所に再度貼り付けておきました。母にはもう隠さないよう言いましたが、「デイの人が薬を取って持って行き飲んでしまう、私は飲ませて

もらってない、だから今度は2階に隠さないといけない」と言って、被害妄想が強くどうしようもありません。薬の所在については、あまり話題にしない方が良くと思います。連絡帳のメモ欄に「その日の薬が残っていれば、デイに持って行かずに、その場で飲ませて下さい」と書きましたが、反対に

薬のことには全く触れない方が良いでしょう。なお、先日、居間に私の携帯電話から操作できる「ネットワークカメラ」を取り付けました。よって、居間にいる母の様子はいつでもチェックできます。母が見ているテレビの画面も見えるし音も聞こえます。電話の後ろの薬カレンダーも拡大して見ることができるようになりました。今朝は、このカメラを見ながら薬カレンダーを確認して、電話で指示しながら今日の分を飲ませることができました』

3月19日のファックス：『昨日、テレビ電話を見ていましたが、母がデイから帰宅後、17時から23時ごろまで、夕食も食べずに、デイから渡されたと思われる手紙を何回も何回も見て、ずっとあれこれ妄想していたようです。電話でその手紙のことを尋ねると、どうも家族会の開催通知らしいのですが「なぜ行くのか、どうして行ったらいいのか、お金がかかるなら行きたくない、断るにはどうしたらいいのか」等々何回も電話がありました。デイから家族への連絡でしょうが、母は本人への連絡と思いこんでいます。余計な混乱をさせたくないで、デイからの家族への連絡文書は、なるべく母には渡さないようにお願いします』

4月25日のファックス：『昨夜は、母はなかなか寝なかったせいか、今朝は少々ぼけていました（夕食を食べたのを忘れて、夜中にテレビを見ながらまたご飯を食べていて、午前2時すぎに就寝したと思う、何回も早く寝よう電話したのですが・・・）。今朝は「最近、デイは待っていても迎えに来ないので全然行っていない。だから今日は、もし来なかったら歩いていく」と言います。「そんなことは無い、遠いから歩いては行けない、デイは車で毎日迎えに来ているよ」と言っても全く聞く耳を持ちません。しかし、9時すぎには今朝のことは忘れていて「デイに行く準備は出来た、玄関で待っている」と言っておりました』

6月6日のファックス：『今朝は、9時半ごろ居間の電灯を消してカーテンも閉めて暗がりの中、椅子に座ってデイの車が来るのを待っていましたが、その後、なぜか電灯をつけて出かけたようです。本人は消したと思っているので、消し忘れを注意しすぎると、反対に留守中に誰かが家に入ってきて電灯をつけた、と妄想してしまいます。したがって、この件、何も言わなくて結構です。帰ってきたときに部屋の電灯がついていても、そこまで気が回らないと思います』

8月27日のファックス：『隣家から以下の連絡がありました。「今日昼過ぎ、家の前で、茶髪の若い女性が母と何か話をしていたが、しばらくすると、見慣れない薄汚れた白のミニバンが止まり、運転していた男と茶髪の女が玄関の中に入った。助手席にいたもう一人の男は視線を避け、玄関の外に身を隠すように立っていた。二人は10分間ぐらい家の中にいたようだ、その後「おばあちゃん、ありがとうね、ありがとうね」と言って立ち去った。何か怪しげな人たちだったので気になって、車のナンバーを控えておいた」、このことを夜、母に電話で聞くと「高いけどおいしいミカンを売りに来たので買った、12個ある、千円だったか、何千円だったか忘れた」とのことでした。物売りが来ても絶対買わないように言いましたが、テレビ電話でみると、夏ミカンより小さくネーブルのような色と大きさのミカンです。来週帰ったときに残金を調べてみます』（翌週、残金を調べると、9千円が無くなっていました。交番にもこの件と控えておいたナンバーを届けました）